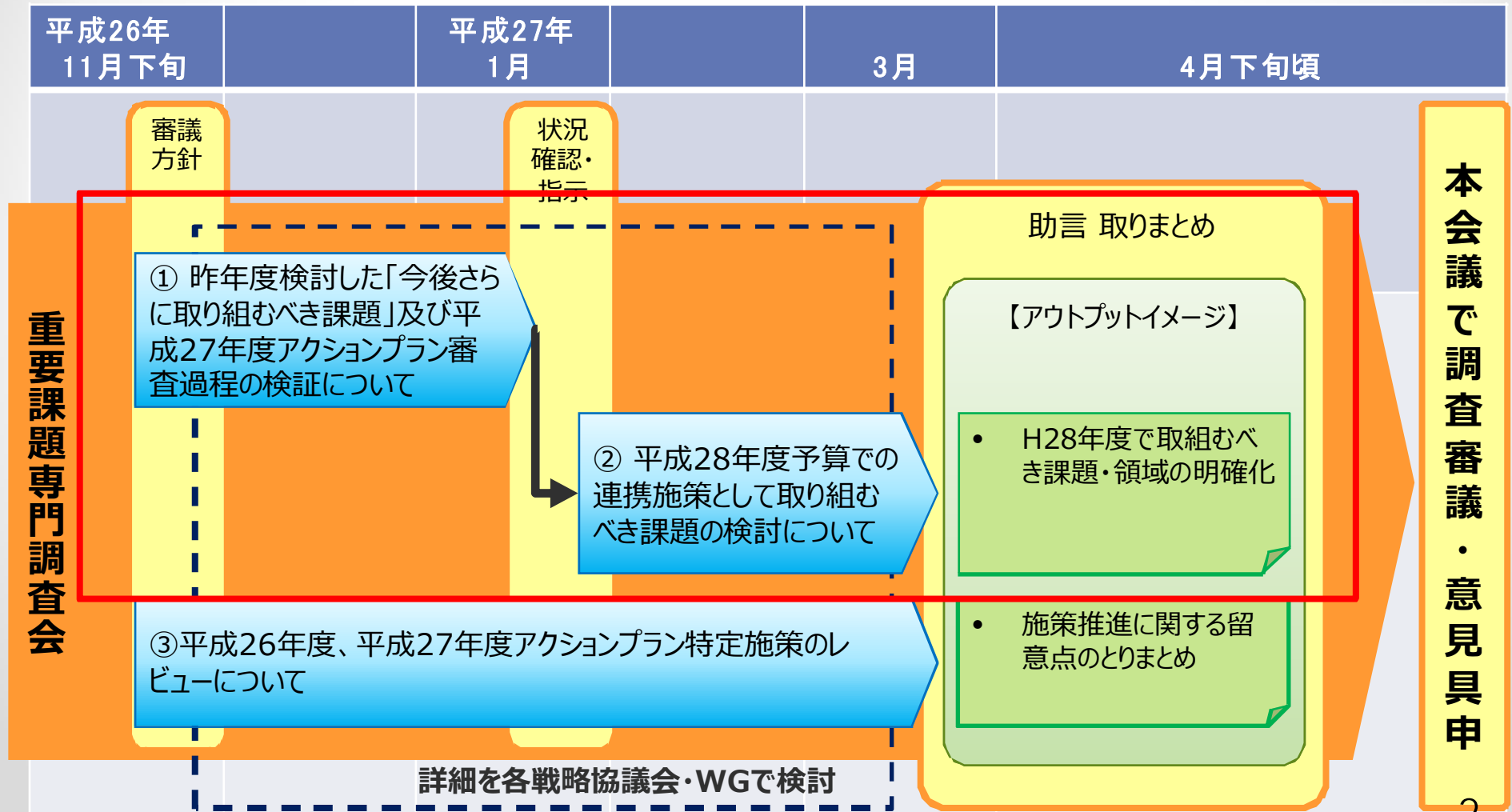


H 2 8 年度に取り組むべき課題 について

平成 2 7 年 1 月 2 6 日
環境WG事務局

平成26年度重要課題専門調査会の審議方法について

- ◆ 重要課題専門調査会において4期基本計画及び科学技術イノベーション総合戦略に掲げられた当面取り組むべき重要な課題並びに今後さらに取り組むべき課題全体を扱う詳細な調査・検討を各戦略協議会・WGで行う

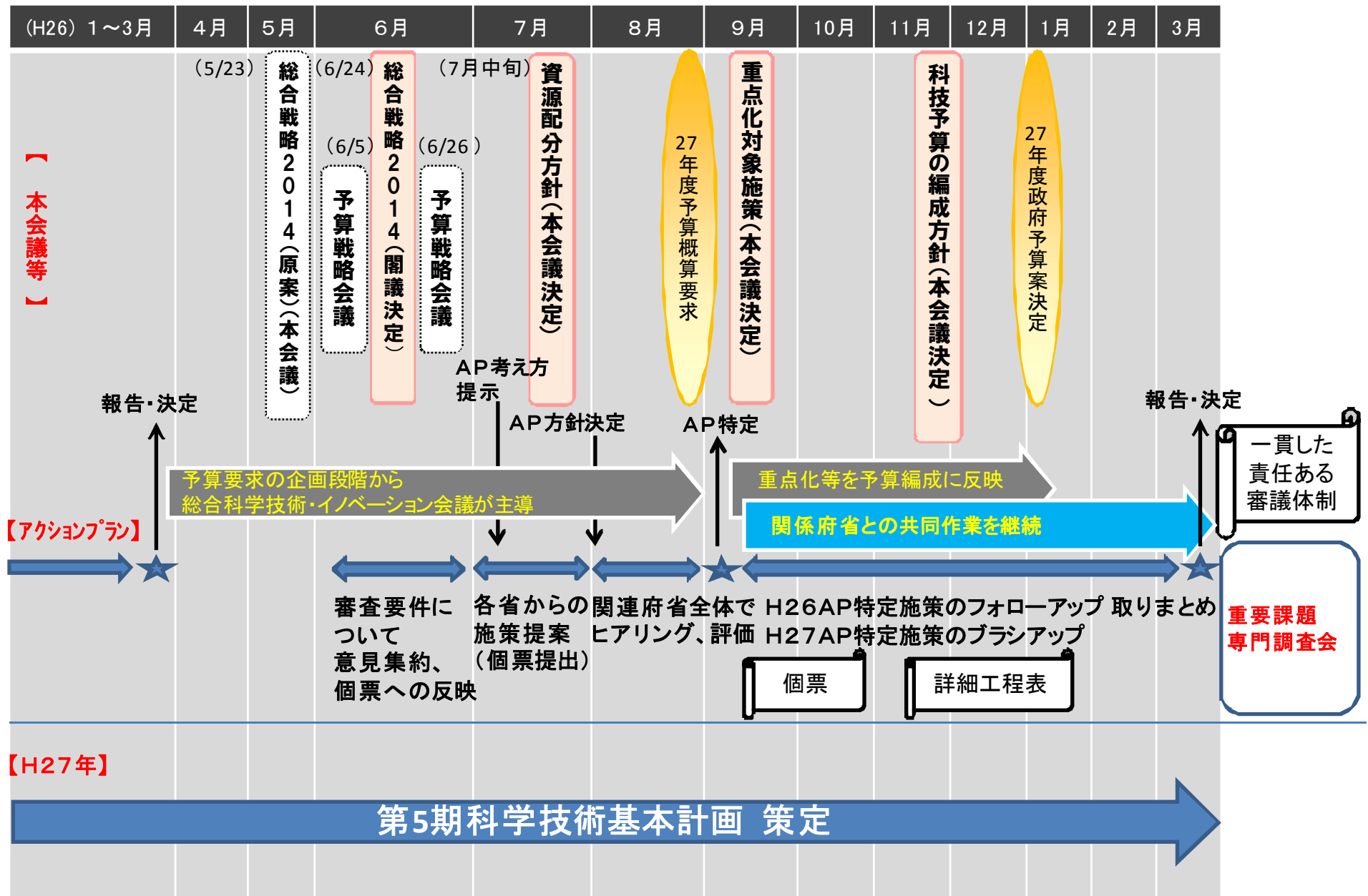


H 2 8 年度取り組むべき課題について

- ◆ 年間を通じたAPプロセスについて4ページにお示しします。
- ◆ 第4回環境WGにおいて、H 2 8 年度に取り組むべき課題を抽出すべく、「政策課題解決への視点、H 2 7 年度アクションプラン審議過程の検証について」という事で議論していただきました。議論の中で出た主な意見をお示しします。（5 ページ）
- ◆ 総合戦略の政策課題解決への視点に対応するH27APとその他各省が取り組んでいる施策をお示しします。（6、7 ページ）
- ◆ それを踏まえ「H28年度に取り組むべき課題策定プロセス」をお示しますので、構成員の方々には議論をお願いいたします。

年間を通じたアクションプラン(SIP含む)プロセスの導入、一貫した審議体制等の構築

第6回科学技術イノベーション
 予算戦略会議 (平成26年6月26日)
 資料1 - 1 より一部改編



前回WGで出た主な意見

◆ A P 制度そのものについてのご意見

- APを出すことにより各省のメリットがないのではないか。
 - APに特定されれば概算要求時の財務省との協議に有利になるなど、各省にAPを出すことによるインセンティブを持たせる仕組みが必要
- AP制度に強制力を持たせるような仕組づくりが必要。
 - 例えば、SIPのように内閣府が財源を持ち、いいアイデアであればサポートするという体制の構築など

◆ 府省連携についてのご意見

- 府省連携でできる課題は限られているのではないかと。
- 府省連携だけでなく、部局間連携など構築できないかと。
 - 上記ご意見を踏まえ、次ページにH27AP特定施策と、環境分野で取り組まれている各省施策を列挙いたします。

環境分野の各省の取り組み（1/2）

（H27AP施策以外の取り組みは第3回環境WG資料2や各省HP（公開）より抜粋）

政策課題解決への視点		取組み省庁	施策名
地球観測推進戦略 記載の分野			
地球環境、空間情報基盤	①	環境省 (H27AP)	衛星による地球環境観測の強化
地球温暖化、地球環境	②	文科省 (H27AP)	気候変動対応等に向けた地球観測衛星の研究開発
地球温暖化	③	文科省	地球温暖化への適応計画策定に必要な科学的知見の創出（H25AP）
地球温暖化	④	文科省	科学技術戦略推進費 社会システム改革と研究開発の一体的推進プログラム「気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革プログラム」
地球温暖化、地球環境	⑤	文科省	南極地域観測事業
地球温暖化、地球環境	⑥	文科省	「グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス」（GREENE）事業 北極気候変動分野
地球環境、空間情報基盤	⑦	文科省	「グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス」（GREENE）事業 環境情報分野
地球環境、空間情報基盤	⑧	文科省	地球環境情報統合プログラム
地球温暖化、空間情報基盤	⑨	文科省	気候変動リスク情報創生プログラム
地球温暖化、地球環境、森林資源	⑩	文科省	地球環境変動研究
地球温暖化、地球環境、生態系	⑪	環境省	環境研究総合推進費
空間情報基盤、気象・海象	⑫	国交省	次期静止気象衛星ひまわりの整備
生態系	⑬	環境省	生物多様性情報プラットフォームの構築と保全政策の戦略的推進
生態系	⑭	国交省	「グリーンインフラ」の取組推進による魅力ある地域の創出
地球温暖化・風水害	⑮	国交省	気候変動等に伴う水害の頻発・激甚化に備えた治水対策
風水害	⑯	国交省	水災害分野における気候変動適応策の推進のための調査・検討経費
海洋生物資源	⑰	文科省	海洋生物資源確保技術高度化

持続可能な
社会の実現
に寄与するモ
ニタリングとそ
の利活用

環境分野の各省の取り組み（2/2）

（H27AP施策以外の取り組みは第3回環境WG資料2や各省HP（公開）より抜粋）

政策課題解決への視点	取組み省庁	施策名
持続的な成長に貢献する資源循環・再生	⑱ 環境省 (H27AP)	水質事故に備えた危機管理・リスク管理の推進
	⑲ 環境省	環境研究総合推進費
	⑳ 経産省	土壌汚染対策のための技術開発（VOCの微生物等を利用した環境汚染物質浄化技術）
	㉑ 経産省	製錬副産物からのレアメタル回収技術開発
	㉒ 文科省	東北発 素材技術先導プロジェクト
	㉓ 文科省 (JST CREST)	「持続可能な水利用を実現する革新的な技術とシステム研究領域研究領域研究領域」「地域水資源利用システムを構築するためのIntegrated Intelligent Satellite System (IISS)の適用」「多様な水源に対応できるロバストRO/NF膜の開発」「世界の持続可能な水利用の長期ビジョン作成」等
	㉔ 内閣府 (FIRST)	「水循環の基盤となる革新的水処理システムの創出」

H28年度に取り組むべき課題策定のプロセスについて

環境WGでは以下のプロセスでH28年度に取り組むべき課題を策定したいと思います。

1. 環境分野の問題で将来解決すべき課題目標とそのための方策例の作成



2. 目標と方策例に該当する各省の取り組みを記載



3. 取組がない課題で、重点化すべき問題を今後取り組むべき課題とする

◆ 構成員の方々には以下の事項についての議論をお願いいたします。

- 次ページにお示しする「環境分野の問題で将来解決すべき課題目標とそのための方策例（事務局案）」について
 - 他に取り組むべき分野がないか。
 - 設定する時間軸が適切か。
 - 抜けている目標や方策例はないか。
 - 策定プロセスに関する意見 等

環境分野の問題で将来解決すべき課題目標とそのための方策例（事務局案）

設定している時間軸が適切か

環境分野	各省の取組	2020年頃		2050年頃	
		目標	目標達成のための方策例	目標	目標達成のための方策例
地球温暖化・気候変動	①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑩、⑪	1990年比CO2 -20%	再生可能エネルギー導入	産業革命前より気温上昇2℃以内	再生可能エネルギー導入 水素エネルギー導入
大気環境（オゾン層）・大気質	①、⑤、⑦、⑩、⑪	PM2.5濃度**以下 オゾン層回復を確認	ディーゼルエンジン排気クリーン化	オゾン層1980年以前に回復	代替フロン無HFC化
気象・海象	①、②、⑤、⑥、⑦、⑫	集中豪雨10分以前に予測 台風進路予想精度20%向上	ドップラーレーダー全国に100台設置 スパコン京の10倍の計算機導入	集中豪雨30分以前に予測 台風進路予想精度50%向上	
水・土壌環境汚染	⑪、⑱、⑳、㉓、㉔	（評価指標？）		（評価指標？）	
地球規模水循環	⑦、⑪、⑮、⑯、⑱、㉓、㉔	（評価指標？）		（評価指標？）	
生物・生態系・生物多様性	⑦、⑪、⑬、⑰	（評価指標？）		（評価指標？）	
リサイクル・循環型社会	⑪、⑲、㉑、㉒、㉓	**リサイクル率*%		**リサイクル率*%	
化学物質のリスク	⑪、⑲	（評価指標？）		（評価指標？）	

項目が適切か

目標・方策例等
が適切か

以下 參考資料

総合戦略2014への「今後さらに取り組むべき課題」の反映

- ◆ H25年度環境WGにおいてとりまとめた「今後さらに取り組むべき課題」は、総合戦略2014第2章第2節「分野横断技術」において以下のとおり反映。

H25年度環境WG 「今後取り組むべき課題」に記載の技術（項目）	総合戦略2014反映内容	
	政策課題解決への視点	コア技術
<ul style="list-style-type: none"> 地球観測情報基盤の整備 地球観測、モニタリング 	持続可能な社会の実現に寄与するモニタリングとその利活用	地球観測衛星等を用いた観測・分析・予測技術
<ul style="list-style-type: none"> 限られた資源でより大きな付加価値を生み出す「資源生産性向上」を下支えする技術（材料の性能評価技術、リサイクルのための材料の選別・分離技術） 	持続的な成長に貢献する資源循環・再生	<ul style="list-style-type: none"> 資源開発や材料プロセスで生じる廃棄物処理技術 材料の評価・選別・分離技術
<ul style="list-style-type: none"> ヒト・生態系、社会経済、地球温暖化のリスクを最小化させる評価技術の開発、その評価手法（環境問題を総合的な観点から評価） 		<ul style="list-style-type: none"> リスクが懸念される化学物質に対する科学的知見に基づく管理・評価手法
<ul style="list-style-type: none"> 資源性や有害性の高い物質を含む製品の管理・回収のための社会システム 		<ul style="list-style-type: none"> 資源性や有害性の高い物質を含む製品の管理・回収
<ul style="list-style-type: none"> ICTを応用した水処理システム 途上国の都市化に伴う生活環境保全 		<ul style="list-style-type: none"> 高度水処理技術

総合戦略2014とH27AP

◆ 「今後さらに取り組むべき課題」のうち、下表の赤枠に示す項目は、総合戦略2014に基づき特定したH27APに包含されていない項目となっており、原因等の分析を進める。

政策課題解決への視点	コア技術	貢献する政策課題	SIP補完/ 新たな先導	新規/ 継続	施策 番号	施策名	今後取り組むべき課題の中で APで対応できている項目	今後取り組むべき課題の中で APで対応できていない項目
持続可能な社会の実現に寄与するモニタリングとその活用	地球観測衛星等を用いた観測・分析・予測技術	次世代インフラ	新たな先導	継続	環環01	衛星による地球環境観測の強化	・地球観測・モニタリング	・地球観測情報基盤の整備
				継続	環文01	気候変動対応等に向けた地球観測衛星の研究開発		
持続的な成長に貢献する資源循環・再生	資源開発や材料プロセスで生じる廃棄物処理技術					AP提案なし		・限られた資源でより大きな付加価値を生み出す「資源生産性向上」を下支えする技術
	リスクが懸念される化学物質に対する科学的知見に基づく管理・評価手法	次世代インフラ	新たな先導	継続	環環02	水質事故に備えた危機管理・リスク管理の推進	ヒト・生態系、社会経済、地球温暖化のリスクを最小化させる評価技術の開発、その評価手法	・環境問題を総合的な観点から評価 (水環境分野以外の) ヒト・生態系、社会経済、地球温暖化のリスクを最小化させる評価技術の開発、その評価手法)
	材料の評価・選別・分離技術					AP提案なし		・限られた資源でより大きな付加価値を生み出す「資源生産性向上」を下支えする技術
	資源性や有害性の高い物質を含む製品の管理・回収						AP提案なし	・資源性や有害性の高い物質を含む製品の管理・回収のための社会システム
	高度水処理技術					AP提案なし		・ICTを応用した水処理システム ・途上国の都市化に伴う生活環境保全